

●2014年の「新生」に向かって

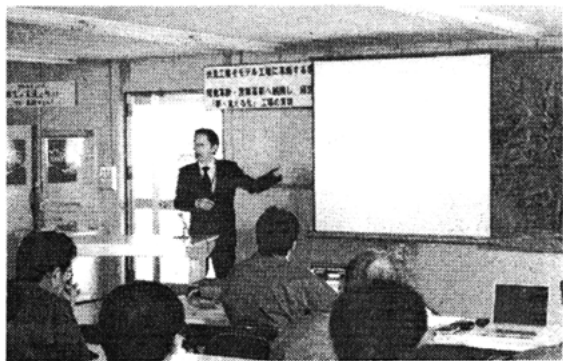
人中心に10年先の企業像描く

いつもと違う月例

「いつもと違う」。声にならないが、社員の誰もがそう感じていた。NKEでは「月例」と呼ぶ全社員参加のミーティングを月初めに開いている。経営状況や事業報告を行うのが常だ。しかし3月30日の月例はいつもと違った。社長の中村道一が、長期経営計画「フューチャープラン2014」を発表したからだ。社員ほとんどが初めて聞く計画だった。

NKEは現会長である中村道一が、68年に京都市右京区で創業した産業機械開発の中村機器設計事務所を前身にする。生産の合理化を実現する組み立て機など自動機の受託開発に始まり、省配線機器「ユニライオン」、コンベヤーなど独自製品を展開する。同社にとって2014年は創業から数えて46年目で、節目と言える年ではない。だからこ

業者特有のクリスマスやワンドマンを持ち合わせていないしタイプが違う。会社もようやく回復基調に入ったばかりで、「どうすれば皆を引っ張っていきけるのか」と自問自答した。その結論が分ち合える計画「フューチャープラン2014」の策定だった。社長就任から10年目の2014年を目標



フューチャープラン2014を発表する中村道一社長 ▲……………振などの傷は完全に癒えておらず、業績もようやくピーク時の半分まで戻ったのが実情だ。

を、創業時から受け継ぐモノづくり思想「BBS（ブロックビルディングシステム）」で融合する。最適ソリューションを提供することにも、健康福祉など新しい事業カテゴリーを創造し、発展を目指す。道一は「担い手はNKEにかかわるすべての人」と呼びかけた。また組織再編や業績連動型賞金体系など会社の変革も同時に断行した。「売上高目標は100億円だが、第一の目標はプランを通して社員自らが新生を実現すること。数字は後からついてくる」。道一は「新生」に全力を注ぐ。（敬称略）

独創的な開発行う企業へ

そ皆がとまどったのも無理からぬことだった。

「就任時の社内は、期待と不安がまざった状態だった」と道一は当時を振り返る。「実績や実力では会長に及ばないが、社員一人ひとりの能力を引き上げ、新しいビジネススタイルを築き、新生を目指す」ことを

計画の骨子に定めた。必要な変化

んな中で「人を中心に発展し、独創的な開発を行う世界企業を目指す」計画は作られた。10年先の企業像はまさに「新生」だった。

具体的構想はこうだ。ハンズリング、搬送、セル生産支援、省配線、ネットワークの重点5領域の製品群

勝つ

道一は05年6月末の社長就任時から悩んでいた。創

10年目の目標

NKE ①

10年目の目標

NKEが成長するには大きな壁があった。これまで

必要な変化

必要な変化

- ▽所在地 京都市府長岡京市馬場岡所27、075・955・0071▽社長 中村道一氏▽売上高 22億5000万円（06年3月期）▽資本金 2億9700万円▽URL www.nke.co.jp